

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

公表日：

事業所名：放課後等デイサービス まんまるONE

対象人数（保護者）55人 回答者数 38人 回収 69.1%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	① こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	29	7		2	狭さを感じますが、もう少し活動スペースにゆとりがあると活動しやすいのかなと思います。もう少しスペースがあった方がいいのかなと思います。	お子さまひとりにつきひとブースを用意しています。個別ブースの他にも余暇の時間を過ごせるフリースペースを確保していたり、場合によっては、空き部屋を使用して配慮が必要なお子さまの環境調整ができるようにしています。
	② 職員の配置数は適切であると思いますか。	30	4		4		支援時間を細分化し、各利用枠の定員を調整することで、お子さまひとりにつき職員が1名以上対応できるように配置しております。職員を増員することで、保護者様とのフィードバック中の安全面の強化を図ることができたり、営業形態を変えるなどしてより多くのニーズを揃えるようになりつつあります。引き続き職員が増員できるような取り組みを行なっていきます。
	③ 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	28	6		4	階段の上り下りでケガの無い様な工夫があるとよいと思います。素早く上り下りできるお子さんとゆっくりなお子さんというので。	生活空間には、荷物置き場を設置したり、ブース名を子供がわかる様に設置したりしています。構造化としてはまだまだできることがあると感じています。階段の上り下りの安全性を高めるために、中央線を引くなどの取り組みなどから着手していこうと思います。バリアフリーの観点では、メイン玄関には、腰掛け場を用意しています。建物正面には車椅子でもノンステップで入れる部屋を用意しています。相談室には、今後手すりをつけることを検討します。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	35	2		1		清掃を毎日行っています。
適切な 支援の 提供	⑤ こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	35	2		1	子どもが内向的な部分や思春期ということもあるので、いろいろ（ほめることも含めて）言われると引いてしまう。特に高いトーンは注意されると感じてしまうようだ。母の私がそうなることが多いせいでもあります。特に入室の際はできるだけ落ち着いたトーンで接していただくと有り難いです。にこやかに接していただければ言葉少なくても大丈夫です。	毎日の昼ミーティングの時間を使用して、支援やお子様の近況などについて話し合ったり、空き時間を使用して、お子さまのアセスメントを整理したり、日々のモニタリングを共有したりする時間を設けることで、職員皆んなで専門性を高める取り組みを行なっています。また、外部研修で学んだことの共有や、本・研究論文の紹介、貸し出しなども職員の間で行なっています。お子さまのことを理解しようとする姿勢、向き合いは今後も継続し、かつ、保護者様と一緒にそれができるように努めてまいります。
	⑥ 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	36	1		1		事業所の支援方針を基に、日々プログラムの見直し、方向性の確認を行なっています。今後、職員や保護者様が、事業所の支援方針や理念などを見直せる、閲覧できるような環境づくり、掲示をしていきたいと思っています。
	⑦ こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	35	1		2		支援後には必ず、保護者様とお話しする時間（フィードバック）を設けています。また、計画更新時のアセスメントやモニタリングはできる限り対面で行うよう努めています。相談員さんが来所した際には、客観的な視点、包括的な視点で情報を収集できるように努めています。
	⑧ 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	34				4	本人支援、家族支援、移行支援について、具体的な活動や取り組み、イベントなどがあつた際には、Hugの活動記録を活用するなどして具体的な内容を周知するよう努めます。
	⑨ 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	36	1		1		お子さまのプログラム表と一緒にファイリングすることで、支援に入る際に必ず目を通し、見直せる様にしています。
	⑩ 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	36	1		1		保護者様から、日々の成長や変化、ニーズなどについて同様にし、それを昼ミーティングなどの時間を使って共有し、職員皆んなで検討するようにしています。その中で、プログラムの見直しを行ったり、繰り返し続けていく必要性を再確認したりしています。
	⑪ 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	13	4		4	17	年に1度、NPO法人うりんこくらぶが主催するノーマライゼーションのイベントに参加しています。それ以外にも、地域住民に向けたオープンデーの開催や、児童クラブ併設の体育館等を利用したりすることで交流する機会を作っています。特定の園や学校、学童などと交流する機会はありませんが、ご縁があつたら積極的に行っていきたいと考えています。
保護者 への 説明等	⑫ 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	38					契約時にご説明させていただいております。待合スペースには、運営規程などを読み返すことができるようにファイルを設置しています。
	⑬ 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	37			1		計画の更新がある際には、できる限り対面でご説明させていただいております。
	⑭ 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング（※5）等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	26	4		1	7	毎月、保護者様向けに障害や発達に関する本を図書館から借りてきています。職員が研修として使用している研究論文などについても、待合スペースで誰でも手に取ることができるように置いたり、ファイリングしたりして設置しています。他にも、保護者会の際などに対面で行えるプログラムや勉強会などの機会を用意します。
⑮ 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	37	1					毎回の支援の後に、保護者様との情報共有を行っています。聞き取りの技術や職員間で支援に活かしていくスキルにはバラつきや課題もありますので、振り返る時間を作ったり、研修を行

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
							ったりすることで、技術向上に努めてまいります。
	⑯ 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	31	3		4		できる限り面談での形をとってアセスメントを取っています。フィードバックの時間以外にももちろん、ご要望に応じて面談を実施するなどして相談、助言の支援を行っております。また、公式LINEやHugアプリを活用して、文面での相談にも対応しています。Hugの活動記録などを活用して、相談や面談体制を整備している旨を周知したり、相談しやすい関係作り、環境作りにも努めてまいります。
	⑰ 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	37			1		傾聴の技術にばらつきはあるかもしれませんが、親身にお話を伺う姿勢、共にお子様に向き合う姿勢を大事にしています。
	⑱ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	24	6		8	きょうだい児への支援について。きょうだい児が中高生ともなると同性のお兄さんやお姉さんのような存在が必要になると思う。今は将来本人に対する具体的なサポートや接し方を何かしら伝えてもらう機会があれば助かります。親子の会話だと中々難しいです。避けては通れないと思うのですが...	保護者会を開催したり、保護者遠足などのイベントを行ったりすることで、保護者様同士の連携を支援しています。Hugの活動記録を活用するなどして、保護者支援、きょうだい支援の取り組みについて周知できるよう努めてまいります。
	⑲ こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	34	1		3	質問の意味がよくわからないです。	ご相談に対応できる様な体制を整備しています。ご契約時に必ずご説明させていただいております。
	⑳ こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	37			1		お子様に対しては、デジタルツールを使用したり、視覚補助・聴覚補助ができるツールで対応させていただいております。保護者様に関しては、次回ご利用メモなどを使用し、確認事項やお伝え事項などがある際には、筆記にてお渡ししたり、公式LINEなどをしようしてデジタルコミュニケーションが取れるような体制を整えています。
	㉑ 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	32			6		ホームページとHugアプリで必ず掲載させていただいております。その旨は契約時にご説明させていただいております。
	㉒ 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	37			1		個人情報が載っているファイルやパソコンはすべて鍵付き書庫にしまっています。また、社外への持ち出しを禁止しています。
非常時等の対応	㉓ 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	32	1		5		待合スペースにファイリングし、閲覧できる様にしています。感染症に関する訓練やBCP訓練などさまざまな研修、訓練を毎年行っております。訓練がある月などには、周知ウィークとして、研修訓練実施報告やマニュアルなどの周知を行っていくことを今後の課題とします。
	㉔ 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	28	1	1	8		避難訓練はさまざまなパターンを想定し、職員だけの訓練は必ず年2回、お子様も一緒に訓練は年4回以上行っております。
	㉕ 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	37	1				毎年安全計画を作成し、研修を行ったり、事業所の安全点検を行ったりしています。ヒヤリハットを共有し、生活環境の改善を図っています。
	㉖ 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	30	3		5		怪我があった際には必ず保護者様に報告しています。事故が発生した場合は、県、市町村にも報告した上で、対応させていただきます。この旨は契約時に必ずご説明させていただいております。
満足度	㉗ こどもは安心感をもって通所していますか。	37			1	とても行くことを楽しみにしています。	引き続き安心して通える環境づくり、関係構築に努めてまいります。
	㉘ こどもは通所を楽しみにしていますか。	36	2			毎回、通所を楽しみにしています。時々参加者が入れ替わるため、内向的なわが子は慣れるのに少し時間がかかります。慣れないとあまり行きたいと思えないこともあるようです。	お子様との関係構築などについて、日々話し合いを行っております。引き続き楽しんで通える場という在り方を土台に、支援させていただきます。
	㉙ 事業所の支援に満足していますか。	36	2			本人の体調もあり、お休みが多くなり申し訳ありません。新学年となり学校の生活がしばらく落ち着かない分、まんまるoneさんでゆっくり温かな時間を過ごせればと期待しております。今年度もよろしく願いいたします。なかなか日曜日（保護者が送らないから日）空きが出なく、固定で入れていないため不安があります。個別支援 職員が増えるとよい。もう少し利用したい。	職員体制や、業務体制を鑑みて、今後営業日を増やしたり、営業時間の改革を行うことで、ニーズに対応していきたいと考えております。

※1 「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2 「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3 「放課後等デイサービス計画（個別支援計画）」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的な内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4 「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5 「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。